

国際科の学び

☆「国際科」はこんな学科です！☆

国際科では、3つのことを大切に育てます。

- その1. さまざまな体験をすること
- その2. 人とのかかわり方を学ぶこと
- その3. 「知っている」を「できる」に変えること

この3つが実現できるように学びを工夫しています。

— 5つの特長 —

☆「KOKUSAI 人」ってどんな人？ ☆

国際科の目的は、「『KOKUSAI 人』の育成」です。『KOKUSAI 人』という言葉は、ローマ字表記と漢字を合わせ、「多様性」を意識した造語です。グローバル社会である現代において、「国際」とは「多様性」を意味します。もはや英語が話せるだけでは国際人とは言えません。生活の基盤が国内なのか海外なのかは、もはや問題ではありません。多様な価値観を持つ人々と円滑にコミュニケーションできる力こそ、これからを生きるわたしたちにとってなくてはならない力となっています。

国際科では、英語はあくまでツールであり、多様な価値観を認めた上で、自分の言いたいことを正しく伝える力、英語でコミュニケーションができる力を持った生徒を育成します。

— 国際科の3つのポリシー —

☆ どんな学校生活？ ☆

国際科の授業は週5日制、6限目までです。授業で得た学びを放課後などの時間を使い個人・グループで深めていきます。

一週間は、「礼拝」からはじまります。みんなで聖歌を歌い、聖書の言葉に耳を傾け、神様と自分に向き合います。多様な価値観を受け入れ、相手の立場に立って考え行動するには、しっかりとした「自分軸」が必要です。これから生きていくみなさんにとってとても大切な時間となるでしょう。

☆ どんなカリキュラム? ☆

国内・海外における語学実習プログラムやキャンプ活動を通じて得られる協働体験、これからの未来を生きる上で必要な「自分軸」をつくるための宗教教育、クリティカル・クリエイティブな思考を育むための探究型学習が中心となる教科・科目が多いのがカリキュラムの特長です。

☆ どんな授業スタイル? ☆

基本的にどの教科・科目も主体的に「学び合う」授業です。「学び合う」授業とは、生徒と教師がそれぞれに自らの「問い」を立て、その「問い」をもって対話や議論をするスタイルで進められる授業のことをいいます。科目の1コマが通常の授業時間の2コマ分で設定されている科目もあり、授業に参加する一人ひとりの「問い」が多くの対話や議論を通して深まるように設計されています。

また、授業の中では生徒同士もしくは教師がアイスブレイクやチームビルディングのためのいろいろな手法を用いることで、対話や議論が楽しく、効率的に、主体的に参加できるように展開されます。

☆ 国際科の専門科目 ☆

(1) 英語

① 「総合英語」(1・2年次)

中学校3年間の学習内容を総復習しながら、「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」、そして自分の意見を英語で「発表する」力を養います。特に、「発音よりも発声」、「間違いをおそれずとにかく話す」姿勢を大切にしています。

② 「異文化理解」(1年次)

中学校3年間の基本的な学習内容を活用しながら、諸外国の文化についての理解を深めます。多角的・多面的な視点で国際社会を見つめることで、現代に特有の問題を発見する力を養います。授業は英語を使用し、少人数で議論しながら自分の意見を英語で発信できる力を身につけます。

③ 「英語理解」(2・3年次)

1年次の総合英語での学びをもとに、テーマ別に英語の新聞やエッセイなどを読む力を身につけます。さまざまな社会の問題に対して自分の考えを持ち、その自分の考えを英語で表現する力を伸ばします。

④ 「英語表現」(2年次)

エッセイライティング(英語で論文を書く)力と基本的な英語表現力を身につけます。伝えたい情報や自分の考えを正確に述べられるようにします。

(2) その他の学校設定科目

① ファウンデーション（3年次）

イギリスの大学進学用教養課程プログラム「ファウンデーション・コースB」の「ターム1」をそのまま授業の中で実施します。中学と高校の英語の学びを実際のイギリス人が学ぶ学び方で総復習します。基本的な文法からエッセイライティングまで、英語で英語を学ぶ感覚で授業は進んでいきます。また、学習の成果がイギリスの基準を満たせば、高校3年次の1月よりイギリスにおいて「ターム2」および「ターム3」を受講することが可能となり、同年9月にはイギリスなどの提携先6大学に直接進学することができます。

【提携先6大学】

② ファシリテーション基礎・演習（2・3年次）

ファシリテーションとは、従来のリーダーシップやコーチングとは違って、その場にいるメンバーの対話や作業を各自の主体性を引き出しながら効果的に議論などを進めるための能力です。アイスブレイクやチームビルディングなどの手法を学び、会議や協働作業をはじめ、集団におけるさまざまな活動を用いながら円滑に進められる力を身につけます。

2年次に基本的なスキルを学び、3年次には学びを実践に移して、本格的なファシリテーターとしてのスキルを身につけます。校内行事の運営や地域や校外での活動を通じて体験的に学びます。また、PA（プロジェクトアドベンチャー）教育なども取り入れて、「チャレンジ・バイ・チョイス」の精神、集団活動において他者の主体性を引き出しつつ、より効果的な活動の担い手としての資質を身につけます。

③ 聖書・キリスト教文化（1・2・3年次）

多様性を受け入れる第一歩として、「宗教」の授業があります。仏教・神道がベースの文化圏の中で、身近にキリスト教を感じることができます。また、世界中の文化・価値観が宗教を通して形成されていることを学ぶことができます。高校生の時期に、しっかりとした「自分軸」をつくりあげ、多様な人々と協働・共感できる資質を養います。

(3) 総合的な探究 【探究基礎（1年次）・探究ゼミⅠ（2年次）・探究ゼミⅡ（3年次）】

3年間の総合的な探究の時間を通して、大学の学びにつながるようなスキルと身につけます。

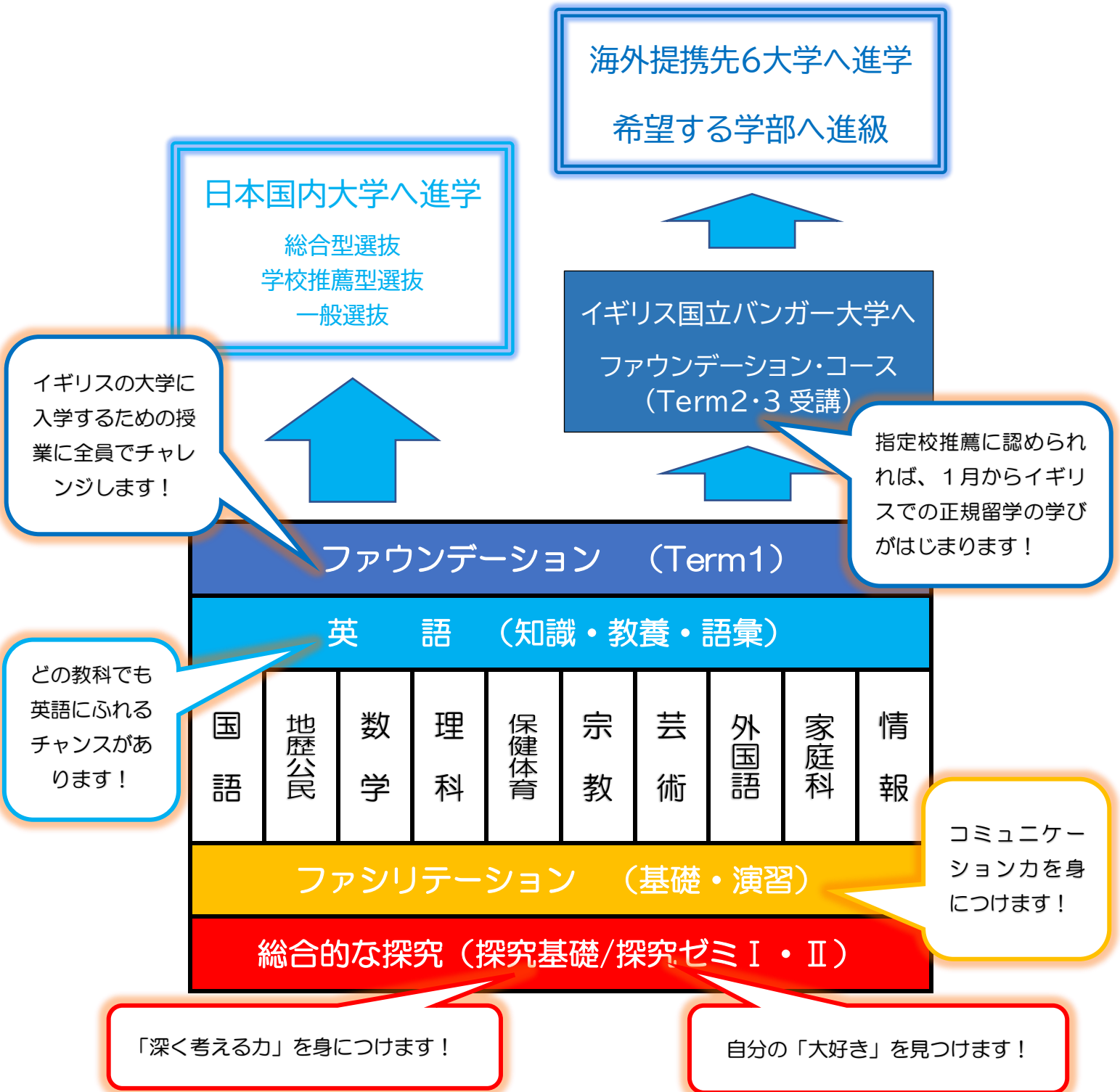
1年次は、探究活動の「型」を学びます。問いの立て方、調査・分析の方法、アカデミック・ライティングの技法、プレゼンテーションの作法など探究活動に必要な基本的な能力を身につけます。

2年次は、1年次の「型」をもとに、担当教員から提示されるいくつかのテーマの中から、生徒それぞれの興味関心にあわせて課題を選択し、調査して、プレゼンテーションを行います。

3年次は、さまざまな社会の問題の中から一人ひとりがテーマを設定し、その解決に向けてプロジェクトを立ち上げ、主体的に調査・分析し、発表するPBL（Project/Problem-Based-Learning）型の学習を通して、仲間に関心を持って意見を的確に伝える力を習得します。

— 国際科カリキュラムのイメージ —

“身につけた「英語力」をいかして、自分の「大好き」をきわめられる進路へ！”



☆ どんな実習プログラム？ ☆

高校1年次より、学びと成長がつながる国内・海外実習プログラムを準備しています。さまざまな体験を通じて、多様な価値観を受け入れつつ、協働・共感できる力を身につけます。

(1) 海外語学実習（1・2年次全員必修）

◎目的：「英語力の向上」

まずは、非英語圏にて英語の発信力を高めるトレーニングをします。教室だけでなく、さまざまな協働体験をすることで、語学力と多文化への寛容性を養います。

また、将来のグローバルリーダーの活躍の場としてのアジアを認識し、自分の将来の展望を持つことができます。

1年次 行先予定地：フィリピン共和国 ドゥマゲッティ市 シリマン大学

2年次 行先予定地：マレーシア プトラジャヤ市 セコラスルタンアラムシャー高等学校

(2) 国内実習（1・2年次全員必修）

◎目的：「PA（プロジェクトアドベンチャー）教育」

PA（プロジェクトアドベンチャー）教育とは、さまざまな体験を通して「自らの意思」で「一歩踏み出す」力を育てるものです。人それぞれにある[成長の領域](#)に合わせて挑戦するチャンスと環境をたくさん準備しています。

1年次 行事予定：「大山キャンプ」 鳥取県 八代学院 大山野外活動センター

1・2年次 行事予定：「六甲全山縦走登山」 兵庫県 六甲全山縦走登山コース